

第10回「耕人塾」

[日 時] 平成30年9月14日（土）18:30～20:30

[場 所] 石巻専修大学5号館 3階学生ホール

[テーマ] 「茶道を日常生活に生かす」

[使用したテキスト] 『耕人』 第7-5号.pdf（塾長から塾生へのメッセージ）

[活動内容詳細]

●塾長挨拶（木村塾長）

外国の文化を理解するには、まず自分の国の文化を理解し、伝統文化を身に付けることが大切です。本日の茶道体験や石田邦子先生からの講話から日本の伝統文化のよさを学んでほしいことを塾生に伝え、激励しました。



茶道体験の講師は表千家教授石田邦子先生です。毎年、耕人塾では、石田先生から日本の伝統文化やそこに流れる精神について、塾生に分かりやすく教えていただいています。

●茶道体験【60分】

(1) 茶道のお点前披露

茶室への入り方から一連の作法を教えてくださいました。飲み終わったときに口をつけたところを指で拭くこと、懐紙で指を拭くこと、一畳を6歩で歩くといい動作の意味や仕方についても学ぶことができました。また、掛け軸や花入れ、茶器等の拝見の仕方、「お先に頂戴します」「お点前頂戴いたします」「もう一服いかがでしょうか」「十分に頂戴しました」等の言葉、茶碗の正面の扱い方等、全ての作法には、亭主、同席する方、茶器等に対する気遣いがあることを教えていただきました。



床の間に見立てた空間に飾られた「喫茶去」の掛け軸。「喫茶去」の言葉には、まずはお茶でもいかがですかと、どんな時でも、誰に対しても、おもてなしの心で迎えましょう、という意味が込められていることについて石田先生から教えていただきました。

(2)お茶を飲む

きめ細やかなご指導のおかげで全員が一連の作法に則ってお点前を頂戴することができました。作法の一つ一つに戸惑う塾生も見られましたが、緊張感のある中で、貴重な体験ができたようでした。



菓子もお茶も、自分の番が来たら次の人に「お先に」とあいさつして受け取る塾生。同席者への心づかいを表す「お先にいただきます」という意味を、作法を通して体験することができました。



座る・立つ・歩くそしておじぎという基本の動作について石田先生から教えていただきました。畳一畳をおよそ六足で歩き、足幅の分だけ前へ進めてかかとをスルように歩くことや、席中へは左足から入ることなど、茶道の立ち振る舞いについて、理解を深めることができました。

●講話「茶道を日常に生かす」



お点前を通して、その作法だけでなく根底にある精神を身に付けてほしいとの願いから、茶道の「お先に」という言葉に重点を置いてお話をされました。

今日何度か口にした「お先に～」という言葉は日本独自のマナーで、相手を気遣う心の表れです。茶道の作法に目が向かいがちですが、実はお茶を頂く空間の全てのものに「おもてなしの心」が溢れています。耕人塾生には、ぜひ自信をもって「お先に」と言い、広めていってほしい。普段から「お先に」を使う人が増えれば、みんなが気持ちよく過ごせるようになるのではないのでしょうか。

●班別討議・全体学習

本日の茶道体験や講話を通して学んだことを班で伝え合い、全体で共有することができました。



講師の石田先生が伝えたかったことを班ごとに討議してまとめ、全体発表を行いました。

【各班から出された意見】

- ・茶道を通して、おもてなし方など多くのことを学びました。特に、人や物を大切にする心、日常生活で礼儀正しく行動しようとする心などを学ぶことができました。
- ・「畳への上がり方、履物の揃え方、歩き方、座り方、礼の仕方」などを教えていただきました。お菓子を置く懐紙の作り方も教えていただきました。履物を揃えることや丁寧に礼をすることなどは、日常生活にも通ずることを実感しました。
- ・茶道は古くから伝わる日本の誇るべき伝統文化であることが、改めて知ることができて良かったです。特に、相手のことを大切に尊重する「おもてなしの心」を学びました。
- ・自分自身のことよりも相手のことを先に考え行動に移していく姿勢は、非常に大切なことだと思います。
- ・「お先に」という言葉を積極的に使っていきたいです。

メニュー

ホーム

耕人塾の活動

令和2年度の活動

令和元年度の活動

平成30年度の活動

第13回「耕人塾」第7期 閉塾式

第12回

第11回

第10回

第9回

第7-8回 宿泊研修

第6回

第5回

第4回

第3回

第2回

第1回

平成29年度の活動

>

平成28年度の活動

>

平成27年度の活動

>

平成26年度の活動

>

平成25年度の活動

>

平成24年度の活動

報道・受賞